

教育改善スキル修得オンラインプログラム第二弾「自律学習支援編」の構想

Conception of Educational Reform Skill Learning Online Program: 2nd Course on Autonomous Learning Assistance

鈴木克明・喜多敏博・平岡齊士・長岡千香子・山下 藍・張 曉紅

Katsuaki Suzuki, Toshihiro Kita, Naoshi Hiraoka, Chikako Nagaoka, Ai Yamashita, Xiaohong Zhang

熊本大学教授システム学研究センター

Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University

Email: ksuzuki@kumamoto-u.ac.jp

あらまし：次世代の大学教員準備を目指して、教育系大学間共同利用拠点が提供するオンラインプログラムの一環として構想した「教育改善スキル修得オンラインプログラム」の第二弾「自律学習支援編」の構想について概観する。自律学習支援編は、すでに無料版が全面公開され、有料版が履修証明制度によるプログラムとして開始している「科目デザイン編」の後続にあたり、大学生を自律的な学習者に育てるために大学の授業にどのような工夫ができるかを提言することを目指すものである。

キーワード：インストラクショナルデザイン、自律学習支援、FD、高等教育、教育改善スキル

1. はじめに

熊本大学教授システム学研究センターは、2018年度に「教授システム学に基づく大学教員の教育実践力開発拠点」として文科省教育関係大学間共同利用拠点としての認定を受けた。2019年3月より、日本全国の大学教員と大学院生を対象として提供するオンラインプログラムの一環として構想した「教育改善スキル修得オンラインプログラム」の第一弾「科目デザイン編」の無料版・有料版を公開した⁽¹⁾⁽²⁾。オンライン大学院「教授システム学専攻」(以下、GSIS)での教育実践とその背景にある教授設計学(以下、ID)を背景に、これまでの多くの大学における教職員職能育成プログラム(FD)が現在の大学での職能を発揮することに留まっていると考えられる限界を意識し、現状への適応ではなく次世代の大学を構築していく教員になる準備と位置づけた挑戦的な内容とすることを目指したものである。

本発表では、「科目デザイン編」に続く第二弾として構想して一部公開を開始した「自律学習支援編」の構想について、構成とデザイン提案の一部を紹介する。

2. 「自律学習支援編」の構成

教育改善スキル修得オンラインプログラム「自律学習支援編」は「科目デザイン編」と同様に5つのモジュールで構成した(表1)。「科目デザイン編」の続編と位置づけ、「科目デザイン編」で次世代の大学についてのイメージづくりとメーガーの3つの質問に依拠した学習目標の高度化、評価と単位認定の見直し、そして認知的発達を支援する授業方法の3領域についての7つずつの提案を検討し、現在担当している、あるいは将来担当することが想定される授業をどのように再設計するかをすでに検討済みである者を対象として構成した。「科目デザイン編」で

はテキストとして用いることを予告して「あとがき」のみを実際に活用した大学1年生向けの教科書『学習設計マニュアル』⁽³⁾を主たる情報源として採用した。モジュール2はICT活用を自律学習支援の観点から位置づけて7つの活用提案にまとめ、本センターのeラーニング推進室で提供してきたMoodle活用ノウハウ集をリンクした形で独自開発した。モジュール1, 3, 4は、自分の学びのデザインのためのノウハウを伝授する大学生向けのテキストを通して、自律学習を支援するために教員ができることは何かを検討することを目指し、テキスト読解、提案ごとの応用スキルの確認、そしてどのような科目でどのような提案を取り入れる可能性があるかを検討するという要素をそれぞれに盛り込んだ。

モジュール5は、これらの検討結果をまとめ、自分自身の担当科目をどのように変えていくかを検討し、その実現に向けての活動計画を立案する最終課題とする予定である。「科目デザイン編」と同様、自動採点が可能な部分は無料公開し、それ以外を履修証明制度の枠組みで有料講座化する計画である。

表1: 「自律学習支援編」の5つのモジュール

モジュール	テキスト
1: 学生が自分の学びと向き合うきっかけをつくる	『学習設計マニュアル』第一部(第1~5, 16章)
2: 自学自習を促すICT活用	鈴木(2013) ⁽⁴⁾ を発展させて独自開発
3: 学びの場をつくる	『学習設計マニュアル』第二部(第6~10章)
4: 学習スキルを学ぶきっかけをつくる	『学習設計マニュアル』第三部(第11~15章)
5: 最終課題: 自己変革への行動計画を立てる(有料のみ)	『学習設計マニュアル』第19章(第四部)

3. デザイン提案

表2に、モジュール1で扱う学生に自分の学びと向き合うきっかけをつくるためのデザイン提案7つ、表3には、モジュール2で扱う自学自習のためのICT活用のための提案7つを示す。今後の形成的評価と改善により最終案とする予定であることから(仮)とした。それぞれの提案内容は、テキスト各章で大学生に身につけることを推奨した考え方やノウハウに依拠している。それらを大学教員が意識することによって、自律的な学習が求められる場面が増え、その結果、自律的な学習者がより多く育ってくれることを期待して提案したものである。

入学したが学生らしく振舞えない大学生を対象にスタディスキルを習得させるための入門科目を設置する大学が増えている一方で、その試みが大学全体の教育の在り方や目指す方向性の吟味にまでつながっていない例が多い。そのことを踏まえ、入門科目に限らず大学のすべての科目で徐々に自律的な学習者に育てる継続的な試みが必要であるというスタンスで、デザイン提案をまとめている。

これからの大学には、大学が学校化し、学生が生徒化する流れに逆行する努力が求められており、そのためには、大学全体で自律的な学習を求め、それを支援することが不可欠である。本講座では、随所で「自分の担当科目ではどのアイデアが使えるか、またどんな使い方ができそうか、イメージを広げよう。」というメッセージが届けられ、自分の科目の中でも何らかの行動が求められており、またそれが可能であることを感じ取ってもらえると期待している。

4. おわりに

本プロジェクトで最初に公開した「科目デザイン編」は、2019年3月から2020年2月までの間に、モジュール単位で延べ7060名(IPアドレス)のアクセスがあった。また、無料版プログラムの修了要件を満たしてモジュール単位のデジタルバッジを取得した受講者の数は、延べ122名、有料版の履修証明書獲得者は10名となった。「科目デザイン編」の無料版公開と履修証明プログラムの実施継続に合わせて、今年度中に「自律学習支援編」の開発終了を目指し、モジュール単位で順次公開していくことを予定している。ポストコロナ時代の大学のレベルアップのガイドとして、また、プレFDの努力義務化が通達されたことも追い風に、現役の大学教員や次世代の大学をデザインしていくことに関心を寄せている方々に、個人として、あるいは機関としての活用が広がることを期待している。

参考文献

- (1) <https://kyoten1.cica.jp/moodle/>
- (2) 鈴木克明・喜多敏博・平岡齊士・長岡千香子(2019.9) 教育改善スキル修得オンラインプログラム(科目デザイン編)の構想と無料版・有料版の公開. 第44回教育システム情報学会全国大会(静岡大学) 発表論文集, 425-426
- (3) 鈴木克明・美馬のゆり(編著)(2018)『学習設計マニュアル:おとなになるためのインストラクショナルデザイン』北大路書房
- (4) 鈴木克明(2013) eラーニング活用による教授法の再構築に向けて. 工学教育, 61(3): 14-18

表2：学生が自分の学びと向き合うきっかけをつくるデザイン提案(仮)(モジュール1)

7つの提案	内容
大学を学校にしない(で学生に育てる)	学生をどんな点でどこまで大人扱いするのかについて自分の考えを伝える
学びのオプションを広げる	学生の学びを広げていくオプションが用意できそうかを考えて取り入れる
学生に自分のライフスタイルと学習スタイルを意識させる	人生で何を重視するのか、学ぶ方法の得手不得手を意識させる
学び方のヒントを伝授する	学んできた先輩として、自分の学びで得てきたヒントを伝授する
深い学びに誘う	ペリーの発達段階のより深い学びに誘うことで自律的な学習を支援する
学問分野の特徴と学び方を伝える	学問領域から多くの収穫を得るための8つの質問を投げかける
将来に向けた学びの要素を入れる	「将来に向けた学び」の要素を探し、なければ内容や方法を変える

表3：自学自習を促すICT活用のデザイン提案(仮)(モジュール2)

7つの提案	内容
講義ビデオ公開で講義をやめる	学習する場所と時間と速度を自由にすることで自律的な学習を支援する
資料をオンライン上にアーカイブする	授業で使う様々な資料を公開して学生の主体的で能動的な活用を促進する
リンク集の閲覧・作成・更新で情報収集させる	現実世界との関連を示し、個々の興味に応じて内容に広がりを持たせる
自動採点小テストを出席代わりにする	実施の手間いらずで頻繁に組み込み、便利で学習効果も期待できる
掲示板で相互に学びつつオリジナリティを発揮させる	好きな時に書き込み、自由に交流できる場所として便利なアイテム
ポートフォリオで自己アピールさせる	学習成果を振り返り、今後何に活用できるのかを考察・アピールさせる
オンラインで共同作業させる	グループ共同作業をオンラインで行い授業外での自律的な学びを支援する